特別寄稿

群馬パース大学の教育方針について

――PAZ と PAZ 力の意味と役割――

栗　田　昌　裕[1)]

About an education policy of Gumma PAZ College

――Meaning and role of PAZ and the PAZ ability――

Masahiro KURITA[1)]

要　　旨

群馬パース大学の名称をなす PAZ という単語とそれを分解したＰ、Ａ、Ｚの三文字には建学以来、特定の概念が託してある。その歴史を総括し、新たに学生の教育方針として活用できるような体系的な構造を与え、多段階の標準的な言語表現を定めた。たとえば、PAZ は「平和･公正･安定･成長」を示し、これを「四目標」と呼ぶ。Ｐは「Ｐ力、本人力」「一個人としての柔軟な知的適応能力」、Ａは「Ａ力」「社会力」「社会人としての円満な対人協調能力」、Ｚは「Ｚ力」「職業力」「職業人としての有用な業務遂行能力」を示すとする。三つの力を併せて「PAZ 力」または「三能力」と呼ぶ。それぞれにはより詳細な言語表現や関連概念を対応づけて、教育の現場で活用できるような広がりや奥行きを与えた。記憶の便宜のために、左右の手指に対応づけて「十力」として説明する方法も提案した。ディプローマポリシー、カリキュラムポリシーと関連づける方法も示唆した。

キーワード：PAZ 力、建学の精神、教育方針、社会力、職業力

Ⅰ．は　じ　め　に

本稿では群馬パース大学（以下、本学）の名称のもとをなす「PAZ」という単語とそれを分解した「Ｐ、Ａ、Ｚ」の３文字とに託された一連のメッセージを解説する。特に、それを教育の場で活用する際の標準的な言語表現を提示する。タイトルに「教育方針」という用語を掲げたのはそのためである。

また、一連のメッセージに対応する日本語の表現には歴史的な推移も見られるので、後々の混乱を避けるために、執筆時点で確認された事項を整理して記録する。

Ⅱ．2015年度の学生便覧での表現

比較のために、2015年版の学生便覧の「Ⅰ　大学の概要」の項目にある表現を以下の「　」内に引用する。これは本稿での主な提案を理解するもとになる。ここには「建学の精神」と「大学の目的」という表現が用いられていることに注目しておく。

「Ⅰ　大学の概要

1　建学の精神

Paz は、平和を意味するポルトガル語、パース（Paz）に由来します。

同時に Paz にはこの３文字を頭文字とする Pessoã（個性）、Assistencia（互助）、Zelo（熱意）の意味が与えられています。

Paz（平和）　平和で公正な社会の発展

1）群馬パース大学学長

Pessoã（個性）――個人の尊厳と自己実現、
Assistencia（互助）――多様な人々の共存と協調、
Zelo（熱意）――知の創造、

2　大学の目的

豊かな教養と人間愛を備えた質の高い保険医療専門職を育成し、保健・医療・福祉サービスとの協働及び知の創造を通じて、国際社会、地域社会に貢献することを目的とします

（筆者注。以下、3は保健科学部の学部目標、4は学科教育目標と続く）」。

学生便覧の以上の内容は、群馬パース大学の同上年度の公式ホームページの内容と同一であり、2010年から2014年までの学生便覧の表現とも一致する。なお、Pessoã は、文書によっては Pessoa と表記されることもあったが、本稿では Pessoã に統一する。

Ⅲ．本学の教育方針の標準的な表現の提案

前項に示された「PAZ とＰ、Ａ、Ｚに託された諸概念」の骨子は、建学時から用いられて来たものであるから、本学の教育の実践に際してもそのアイデアを活用することが望ましい。すなわち、本学の教職員は、大学の名称が持つメッセージをよく理解し、学生にも伝えて、教育の現場でその趣旨をよく活かすことが期待される。そのためには、内容を活用しやすいように敷衍して展開したり、敷衍や展開のレベルに応じて言語表現（言い回し）を整えておくことが望ましい。本項の以下の部分では、そのための標準的な表現を示す。

本学の名称 PAZ は、16世紀に日本に初めて西洋医学を紹介したアルメイダにちなんでポルトガル語から選ばれた。PAZ は「平和」を意味する単語である。

本学の名称「PAZ」は、本学が**「平和で公正で安定し成長する」「社会を希求する」**大学であることを示す。同時に、**大学も学生も「平和・公正・安定・成長」**を旨とすることを示す。「旨とする」とは「実現し維持することを目指す」ことである。したがって、「平和・公正・安定・成長」を本学の「目標」または「四目標」とも呼ぶ。なお、「成長」には**「持続可能な発展」**という意味も含むこととする。

さらに、「Ｐ、Ａ、Ｚ」の各文字には（前項でも示したように）、

Pessoã（個性）、Assistencia（互助）、Zelo（熱意）

という個別の概念が付与されている。この対応に基づいて、学生の**「一個人、社会人、職業人」**としての側面に注目し、それぞれに必要な能力を**「Ｐ力、Ａ力、Ｚ力」**と呼ぶ。これら三種の能力（以下、**三力**。文脈によっては**三能力**とも呼ぶ）を総合した能力を**「PAZ力」**と呼ぶ（文脈により、PAZ 力＝**「人間力」**とも呼ぶ）。三力は**「個人生活、社会生活、職業生活」**を律する（すなわち、制御し、コントロールする）力である。律することを個別に表現するときには「充実した個人生活を送る」、「円満な社会生活を送る」、「有用な職業生活を送る」とも表現できる。

本大学では「四目標を目指して、三力、すなわち、Ｐ力、Ａ力、Ｚ力に多様な意味を与えて、それらを**総合的に高めて** PAZ 力を確立する」ことを**「教育方針」**とする。

総合的に高めるには、三力を個別に高めて強力にすることが必要条件となる。そこで「四目標を目指して、個人生活、社会生活、職業生活を支え高める人間力、社会力、職業力を育成する」ことを**「教育の三本柱」**とも呼ぶ。

以上を整理して簡略に言えば、

「本学の教育方針は、１）在学中も卒業後も「平和・公正・安定・成長」に価値と意義を見出し、それを実現し維持することを目標とし、２）本人力、社会力、教育力と呼ぶ三力を併せて総合的な人間力をもった人材を世に送り出すことを目指す」ものである。

以下、三力には、文字数の異なる４つの段階の言語表現を与えておく。各段階で三力に同一文字数の言語表現を与えることには、「表記の外観を整える」意図がある。その理由は、説明などに際して、字数が揃っていた方が、視覚的な理解も記憶も容易になると考えるからである。

PAZ 力を、「Ｐ力、Ａ力、Ｚ力」と呼ぶことを**「第一段階」**の表現としよう（２文字で表現しているので、これを「２文字表現」とも呼ぶ）。

PAZ 力の**「第二段階」**の表現とは３文字の単語を対応させたものをいう（これは「３文字表現」と呼ぶ）：

Ｐ力＝**「本人力」**、
Ａ力＝**「社会力」**、
Ｚ力＝**「職業力」**。

PAZ 力の**「第三段階」**の表現とは以下のように10文字の言語表現を対応させたものをいう（これは「10文字表現」と呼ぶ）：

Ｐ力＝**「柔軟な知的適応能力」**、

Ａ力＝**「円満な対人協調能力」**、

Ｚ力＝**「有用な業務遂行能力」**。

このうち特に、「知的適応能力、対人協調能力、業務遂行能力」の部分だけに限定したものは「６文字表現」と呼び、10文字より簡略に表現したいときに用いることとする。

PAZ 力の**「第四段階」**の表現とは以下のように27文字の言語表現を対応させたものをいう（これは「27文字表現」と呼ぶ）：

Ｐ力＝**「学識を増し、見識を磨き、人として成熟し、適応力を高める」**、

Ａ力＝**「共感力、協調力、交流力を高めて、円満な対人能力を伸ばす」**、

Ｚ力＝**「専門的な知識と技能を真摯に学び、有用な仕事力を修得する」**。

２文字表現では、意味する内容は第三者には不明であるが、３文字、６文字、10文字、27文字と字数が増えるにつれて、PAZ 力の内容はより具体的に伝わる。すると、それに応じて、本学の**「教育方針」**が理解されやすくなる。

表１では、以上の内容を整理した表示の例を示す。

表１

用語	意味する内容
PAZ（平和）	平和・公正・安定・成長を希求する
Pessoã（個性）	柔軟な知的適応能力（一個人としての側面）
Assistencia（互助）	円満な対人協調能力（社会人としての側面）
Zelo（熱意）	有用な業務遂行能力（職業人としての側面）

Ⅳ．本学の教育方針の医療的観点からの表現例

2015年度時点では、本学の三学科はいずれも医療専門職を育成している。そこで、上記の PAZ 力の第三段階や第四段階の表現を、医療系の大学であることを考慮して説明し直すと以下の例のようになる。

Ｐ力＝「問題意識を高め、人格を磨き、倫理観を養い、研究する能力の基礎を育むこと」、

Ａ力＝「医療の現場で出会う人々に真摯に向き合い、思いやり、優しさ、共感を持って接し、的確なコミュニケーション能力を発揮し、チーム医療のセンスを育て、地域や社会に貢献する意志を養うこと」、

Ｚ力＝「日々進歩する医学医療の知識と技術を的確に学び、向上心を失わずに努力し、役割を理

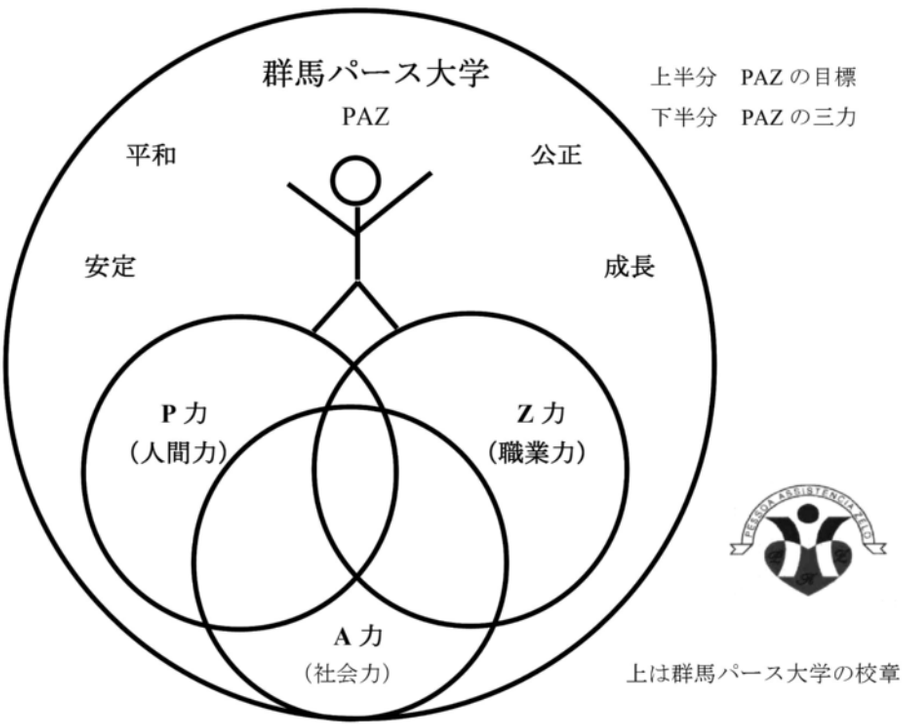

図１　群馬パース大学の教育方針の図式。右下は創立時以来の校章（ロゴ）。

解し、医療の現場のさまざまな問題を発見し、評価し、解決し、主体的、意欲的、効率的にかつ責任感をもって職能を発揮する基礎を習得すること」。

本稿の教育方針を、図式的に示したのが図１（前頁参照）である。図は、Ｐ力（人間力）、Ａ力（社会力）、Ｚ力（職業力）の三力を育成し、それを踏まえて、平和・公正・安定・成長を目標として生きる人を象徴している。このデザインは図１の右下に添えた群馬パース大学の校章を模したものである。校章の解説として、文献１の著者で、校章の作成者である樋口建介総長は「人が平和を支えるイメージで虹の帯を支え、Ｐ（個性）、Ａ（互助）、Ｚ（熱意）の文字の入ったハートを組み合わせて校章としました」と述べている。校章では人物の上方に虹を示すアーチがあり、その内部に、向かって左から「Pessoã Assistencia Zelo」と記してあり、人物の足元に描かれたハートの内部には「Ｐ、Ａ、Ｚ」が書いてある。Ａが手前。Ｐは左、Ｚは右にある。

なお、Ⅲ、Ⅳで紹介した表現は、平成26年度の本学における一連の人間力形成会議や教養・専門基礎教育グループ会議で筆者が提起し、それぞれの場で検討され、議論され、教授会、学園運営会議などで承認された。

Ⅴ．本学の教育体系を両手に託して覚える方法

本学の教育方針を現場の教育に活かすには、学生に、基本概念を「覚えてもらう」ことが重要である。そのためには記憶が容易となるような工夫が必要である。

そこで、左右の十本の指に、重要な概念を結びつけて説明する方法を発案して導入した。この方法は2014年度から、一年生の講義で使用を開始し、以後、折あるごとに学内で解説している。

以下を、「PAZ の教育体系（教育プログラム）の要点を両手を用いて覚える方法」とする。

左手には**「一理念と四目標」**を託す（図２参照）。一理念とは諺「Dum Spiro Spero」（人には生命ある限り希望がある）」の精神のことである。このラテン語の諺は本学を含むパースグループ全体の基本理念である。四目標とは PAZ の表す「平和・公正・安定・成長」である（Ⅲを参照）。

左手の１指（拇指）は**「希望」**を示す。**「希望を念持する」**能力を託す。能力は**「先見力」**と呼び、関連概念は「先見、願望」、反対語は「失望」とする。

左手の２指（人差し指）は「平和」を示す。**「平和を実現する」**能力を託す。能力は**「平和力」**と呼び、関連概念は「和合、共生」、反対語は「不和」とする。

左手の３指（中指）は「公正」を示す。**「公正を順守する」**能力を託す。能力は**「公正力」**と呼び、関連概念は「良識、順守」、反対語は「不正」とする。

左手の４指（薬指）は「安定」を示す。**「安定を維持する」**能力を託す。能力は**「安定力」**と呼び、関連概念は「制御、調和」、反対語は「不安」とする。

左手の５指（小指）は「成長」を示す。**「成長を持続する」**能力を託す。能力は**「成長力」**と呼び、関連概念は「向上、進歩」、反対語は「停滞」とする。

左手全体の概念は「一理念と四目標」だが、能力に注目する場合は**「左手の五能力」**または**「五つの目標力」**とも呼ぶ。この場合は一理念も目標の一部と見なすのである。

右手には**「三能力と二評価」**を託す（図３参照）。三能力とは PAZ 力、すなわち、Ｐ力とＡ力とＺ力のことで、二評価とは**「質的改善」**と**「量的改善」**の二つの働きを言う。

ここでＰ力は**「周囲」**（小領域、局所、身の回り）の改善力、Ａ力は**「大域」**（大領域、大局）の改善力、Ｚ力は**「職域」**（中領域、中局」の**改善力**と見なす。換言すると、Ｐ力は**「本人と身近な場」**、Ａ力は**「社会や環境の場**（の全体）**」**、Ｚ力は**「職業の場**（職場）**」**をそれぞれ改善するために働く力を想定している。

右手の１指（拇指）は「Ｐ力･本人力」を示す。「柔軟な知的適応能力」である。目標は**「賢くなる」**ことと、**「主体性の確立」**である。

これには以下の五側面を想定し、右に並んだ単語の示す関連要因の改善を目指す：

１．知力……想像、観察、鋭敏、洞察、理解、思考、見識、柔軟、創造、自覚。
２．気力……意欲、明朗、喜楽、安心、安定。
３．体力……強靱、健康、訓練、超剋、調和。
４．生活……健全、活発、努力、行動、挑戦。
５．総合……賢明、解決、実現、適応、制御。

右手の２指（人差し指）は「Ａ力･社会力」を示す。「円満な対人協調能力」である。目標は**「仲良くなる」**ことと、**「社会性の獲得」**である。

以下の関連要素の改善を目指す：

関心、敬意、礼儀、配心、対話、
共存、円満、協調、調和、互助、

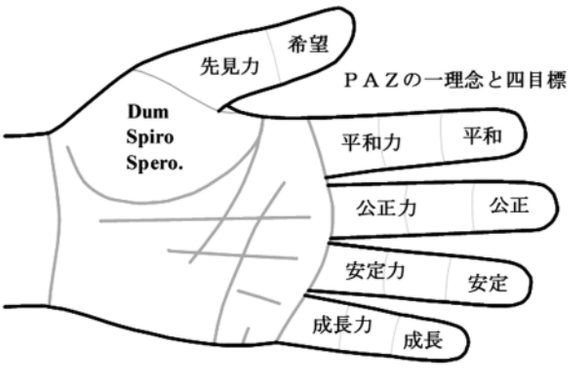

図２　左手の一理念と四目標（または左手の五能力）

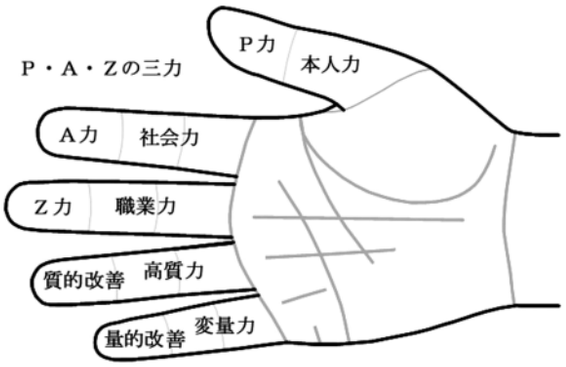

図３　右手の三能力と二評価（または右手の五能力）

信頼、誠意、友愛、公正、義務。

右の３指（中指）は「Ｚ力・職業力」を示す。有用な業務遂行能力」である。目標は**「頼もしくなる」**ことと、**「有用性の発揮」**である。

以下の関連要素の改善を目指す：

知識、技能、迅速、工夫、接遇、

判断、役割、協力、貢献、研究、

責任、進歩、指導、教育、管理。

右の４指（薬指）は**「質的改善」**する働きを示す。これを**「高質力」**と呼ぶ。

右の５指（小指）は**「量的改善」**する働きを示す。これを**「変量力」**と呼ぶ。

右手全体の概念は「三能力と二評価」であるが、能力に注目する場合は**「右手の五能力」**または**「五つの改善力」**とも呼ぶ。

こうして、両手を併せると、「左手の５種の目標力を、右手の５種の改善力で支え、高めつつ、全体として人生をより強力かつ有意義に生きる」ビジョンが完成する。左右の能力を併せて**「PAZ の十能力」**とも呼ぶ。十能力が高まった理想状態を総合的に生み出し、完成する方向に指導することが本大学の教育方針である。

なお、左右を併せて、「一理念・二評価・三能力・四目標」と標語的に表現することができる（１＋２＋３＋４＝10となっていることに注意）。

Ⅵ．より詳細な関連概念の提起

PAZ 力の「第五段階」として、より肉付けをした表を示す（表２）。

この表の１列目には、「個性、互助、熱意」が示してある。これは「Pessoã、Assistencia、Zelo」に対応する用語である（後述のように短期大学申請時以来の表現）。

表の２列目はⅢの冒頭で示した内容で、「一個人、社会人、職業人」の各側面について、それぞれに対応する生活において**「充実した個人生活、円満な社会生活、有用な職業生活」**を目標とすることを示す。

表の３列目には、ⅢのPAZ 力の第三段階の６文字表現を記載した。２列目と３列目を比較すると、「円満な社会生活」と「円満な対人協調力」とでは円満が共通に使われ、「有用な職業生活」と「有用な業務遂行能力」とでは有用が共通に使われている。しかし、「柔軟な知的適応能力」と「充実した個人生活」とでは前者は柔軟とし、後者は充実として用語を変えていることを注意しておく。

表の４列目は、新たに提示する内容である。PAZ 力の三文字表現をより具体的に示すときに用いる三文字語を４種類掲げた。これらは重要な順番に掲げた。すなわち、表の４列目は以下の対応を示す。

「本人力」＝「**見識力**、適応力、理解力、学習力」、

「社会力」＝「**交流力**、協調力、対人力、対話力」、

「職業力」＝「**仕事力**、技術力、判断力、実行力」。

表の５列目は、指導の際に三力のそれぞれに対応づけることができる諸概念を用語のリストとして示した（順不同）。「伸ばすべき諸能力、改善すべき諸側面、または育成・訓練・強化すべき諸特性」などと呼べる。

教育方針に関連する教育プログラムを充実させるために、自由に選択して使用できる。

これらは、Ⅴで右手の１指、２指、３指に託した諸概念と重複があるが、Ⅴでは配置に配慮して示し、Ⅵの表は比較的自由に並べた。実際には両方を合併した全体の概念集合を想定するとよい。５列目は、４列目の三文字語のリストから溢れたものも含んでいる。

表２　教育方針の第五段階の諸表現

表現 三力 象徴	側　面 生　活 目　標	PAZ 力の 九文字表現 （六文字表現）	能力の **三文字語** （重要順）	獲得・育成・強化・改善・保持を目指す 関連概念、関連用語のリスト （網羅的記載、かつ順不同）
Ｐ力 **個性**	一個人 個人生活 充実	柔軟な **知的適応能力**	1　**見識力** 2　適応力 3　理解力 4　学習力	探求力、思考力、解決力、学識、知識、教養、 素養、常識、成長、成熟、理性、知性、 豊かな精神、柔軟、活動性、達成、趣味、 多様な関心、運動、健康、自律、尊厳
Ａ力 **互助**	社会人 社会生活 円満	円満な **対人協調能力**	1　**交流力** 2　協調力 3　対人力 4　対話力	表現力、言語力、語学力、伝達力、共感力、 親和力、コミュニケーション能力、社会性、 人間愛、友愛、優しさ、心配り、思いやり、 博愛、共存、援助、親切、公正、応対
Ｚ力 **情熱**	職業人 職業生活 有用	有用な **業務遂行能力**	1　**仕事力** 2　技術力 3　判断力 4　実行力	業務力、現場力、文書力、観察力、研究心、 職能、専門知識、技能、倫理観、責任感、 熱意、意欲、邁進、向上心、努力、接遇、 態度、真摯、謙虚、創意、工夫、堅実

Ⅶ.「教育方針とディプローマポリシー（ＤＰ）との関係」に対する提案

文部科学省は学士課程教育の課題として､｢大学の個性化・特色化を推進する」ことと、「ディプロマ・ポリシー(以下、DP)やカリキュラムポリシー(以下、CP)」とを相互に連動させることの意義を説いている（文献４)。

そこで以下、本学の教育方針を、本学の教育の詳細を示す DP や CP と関連づけをすることは上記の趣旨にかなっている。

2015年度の現状では、PAZ 力の概念は、DP と表現上の対応はないが､PAZ 力の概念を教育方針として浸透させるには、何らかの対応づけをすることが望ましい。そのための提案を述べる。

まず、教育方針と DP との項目対応を表３のように定める。ここで左の縦列は現状で DP として表現されている諸項目である(DP の詳細は学生便覧参照。文献５)。

表３　PAZ 力とディプローマポリシー(DP)との対応表

PAZ 力 DP の諸項目	Ｐ力 本人力 知的適応能力	Ａ力 社会力 対人協調能力	Ｚ力 職業力 業務遂行能力
【知識・理解】	○		○
【思考・判断】	○		○
【技能・表現】		○	○
【関心・意欲】		○	○
【態　　度】		○	○

この表は､DP の目標を、Ｐ力、Ａ力、Ｚ力を用いて、表に○を付けた対応によって達成することを示す。

具体的には、以下の対応によって、教育方針の三能力を用いて DP の各項目を実現する：

1）（２列目を縦に見て）「Ｐ力を育成して、一個人としての「知識・理解」を深め、「思考・判断」の能力を高める。

2）（４列目を縦に見て）「Ｚ力を育成して、職業人としての「知識・理解」を深め、「思考・判断」の能力を強化し、「技能・表現」を磨き、「関心・意欲」を高め、「態度」を養う。

3）（３列目を縦に見て)､「Ａ力を育成して、社会人としての「技能・表現」を磨き、「関心・意欲」を高め、「態度」を養う。

以下の表現もできる。

PAZ 力の教育方針とディプローマポリシー(DP)との関係は以下の通りである：

1）「Ｐ力･知的適応能力」と「Ｚ力･業務遂行能力」の教育指導を通して、DP の目指す「知識・理解」を深め、「思考・判断」の能力を強化する。

2）「Ａ力･対人協調能力」と「Ｚ力･業務遂行能力」の教育指導を通して、DP の目指す「技能・表現」を磨き、「関心・意欲」を高め、「態度」を養う。

Ⅷ.「教育方針とカリキュラムポリシー（ＣＰ）との関係」に対する提案

現状では PAZ 力の概念は、カリキュラムポリシー(以下、CP)と表現上の対応はないが、PAZ 力の概念を浸透させるには、ここにも何らかの対応づけをする

ことが望ましい。そのための提案を述べる。

まず、教育方針とCPとの項目対応を表4のように定める。左端の縦列はPAZの三力を示し、縦2列以後は、CPで取り扱う科目群を並べた。

表4　PAZ力とカリキュラムポリシー(CP)との対応表

科目 / PAZの三力	教養科目	専門基礎科目	専門科目	実習科目
P力＝知的適応能力	○	○	○	
A力＝対人協調能力	○			○
Z力＝業務遂行能力	○	○	○	

対応は、左列の三力を、右の○をつけた各科目の教育で達成することを示す。すると、以下が提案の内容となる。

PAZの教育方針とカリキュラムポリシー(CP)との関係は以下の通りである：

1）教養科目、専門基礎科目、専門科目を通して「P力・知的適応能力」を高める。

2）教養科目と実習科目を通して「A力・対人協調能力」を高める。

3）専門基礎科目と専門科目と実習科目を通して「Z力・業務遂行能力」を高める。

以上の一般的な対応に、学科毎の個別の教育方針が加わって、本学全体の教育方針を達成する。

Ⅸ．歴史的な考察

以下、「PAZ」にまつわる歴史的な経緯を整理しておく。

⑴　短期大学の設立趣意書について

本稿の内容に関わる「PAZ」関連の概念は、群馬パース看護短期大学の設立時に由来する。

平成8年(1996)5月22日の文部大臣宛の「設立趣意書（財団法人群馬パース看護短期大学準備財団設立許可申請時)」(設立代表者　樋口建介）という文書の冒頭の13行目以降に次のような記述が見られる。

「現在、日本の医学の主流である西洋医学が日本に初めて導入されたのは、ポルトガル人ルイス・デ・アルメイダが大分県にアルメイダ病院を設立した戦国時代であり、医療の歴史において特筆すべきものである。当短期大学はそのアルメイダにちなみ、校名をポルトガル語の『パース』(PAZ）とし、PAZは平和を表すと共にPESSOAS（人々・人類)、ASSISTENCIA（保健・医療・福祉)、ZELO（貢献・献身）を意味している。

群馬パース看護短期大学の教育の目指すことは以下の通りである。

⑴　医学・医療技術の進歩への対応（注：6行略)。

⑵　人間教育（注：6行略)。

⑶　社会に開かれた大学（注：8行略)。

⑷　看護従事者の障害教育の機会と場を提供する（注：14行略)。

⑸　群馬県民の健康増進に寄与する（注：9行略)。

⑹　新しい大学運営（注：8行略)」。

この提出の結果として、平成8年6月13日に、文部大臣奥田幹生から樋口建介宛に準備財団の設立の許可が出た。その後、平成9年(1997)12月には文部省から群馬パース看護短期大学の認可が下り、平成10年(1998)4月の看護学科第1回の入学式が行われた。

上記のP、A、Zに対応させる日本語の単語は現在のものとは若干異なることに注意をしておこう。看護学科の設立にあたり、ナイチンゲール誓詞に見るような人類愛的、献身的な精神に着目して、「人々、人類、貢献、献身」という訳語を対応させた可能性があると筆者は推測する。

その後、平成13年12月に、文部科学省から理学療法学科の認可が下り、平成14年4月には、短期大学の名称を「群馬パース学園短期大学」に変更した。このとき、看護師、理学療法師の両方に当てはまる概念づけがより好ましいと認識されたことであろう。そこで大学の設立時には用語が変更された。

⑵　大学の設立趣意書について

平成16年(2004)4月30日、文部科学大臣宛に「群馬パース大学設置認可申請書」が、「学校法人群馬パース学園　理事長　樋口建介」によって提出された。その目次の冒頭では、1頁目から、「1．設置の趣旨及び必要性」が説かれ、「⑴教育研究上の理念、目的」の細目として、「1）短期大学としての6年間の実績」と「2）短期大学としての限界と四年制大学設立の不可欠性」が述べられ、その後は以下の記載に続く(6～7頁)：

「3）教育研究上の理念、目的

以上より、看護師、理学療法士を養成する三年制の群馬パース学園短期大学、および保健師を養成する一年制の地域看護学専攻科を廃止し、四年制大学を設立することが不可欠と判断し、以下のとおり群

馬パース大学を設置する。

①理念

Paz は、平和を意味するポルトガル語、パース（Paz）に由来する。同時に Paz には、この３文字を頭文字とする Pessoã（個性）、Assistemcia（互助）、Zelo（熱意）の意味が与えられている。

すなわち、群馬パース大学は、

Paz（平和）	平和で公正な社会の発展、
Pessoã（個性）	個人の尊厳と自己実現、
Assistencia（互助）	多様な人々との共存と協調、
Zelo（熱意）	知の創造、

への貢献、を理念とする。

②目的

豊かな教養と人間愛を備えた質の高い保険医療専門職を育成し、知の創造を通じて国際社会、地域社会に貢献し、保健・医療・福祉サービスとの協働を通じて、地域の人々に貢献することを目的に群馬パース大学を設置する」。

ここで注目すべき点は、① Paz に「平和」だけでなく、「公正」という概念が付加されたこと、② Pessoã が単数形であること、③「人々」という訳語が Pessoã から Assistencia の方に移動したこと、④ Zelo から「献身」という意味づけが消えて、「知の創造」に観点が移動したこと、などである。こうして、Ｐ、Ａ、Ｚには短期大学設立時とは異なる日本語が対応づけられたことになる。

⑶　創立者の2004年の著書からの引用

以上の⑴から⑵への推移をより深く理解するために、「真っ赤な夢　ほたか会の誕生」（樋口建介著。医療法人ほたか会。2004年12月22日発行）の p.110～113 にある「40　ネーミング考」から引用してみよう。

「▽群馬パース看護短期大学のパース（PAZ）とは、ポルトガル語及びスペイン語で「平和」を意味する。

▽パースの「Ｐ」はペーソン、英語のパーソンで「人」を表すが、個性、人格もペーソンである。

▽「Ａ」はアシステンシアで、助けるという意味。つまり「互助」に通じる。

▽「Ｚ」はセロまたはゼロ。情熱、熱意を持って勉強するということである。これがパース看護短期大学の精神である。

▽ポルトガル語に理念を求めたのは、日本に西洋医学をもたらしたルイス・アルメイダというポルトガル人に由来する。彼は宣教師だが、貿易商であり、医者でもあった。一五五二年（鎌倉時代）に大分に上陸。領主の大友家の庇護のことに、大分府中に作った西洋式病院で南蛮外科の治療を始めた。アルメイダにとって治療は布教や医学教育の場でもあり、病院の玄関に「コレイジオ」という額が掲げてあった。「コレイジオ」はカレッジの語源である……。

これで大学の理念はまとまりました。設置経費、経常経費及び財務関係資料の作成は、石川君が完璧に仕上げてくれました。

平成七年四月十一日、晴れて文部省、大蔵省に「準備財団群馬パース看護短期大学」指定寄付申請書を提出することが出来ました。でも私はその後も、寄付金募集と実習施設の御願いで東奔西走する毎日が続きました。

アルメイダ胸像（注：画像は本稿では略）

「アルメイダ」とは、1557年にポルトガル人宣教師で、医師でもあったルイス・ド・アルメイダが府内（大分（当時は豊後の国））に初めて洋式病院を建て、日本最初の外科手術、食事療法等の生活指導や巡回治療も行っていました。また、病院には医学校も併設されていました。

大分市医師会ではその偉業を受け継ぐべくアルメイダ病院を創設しました」。

⑷　短期大学の学生便覧からの引用

前項と併せて、短期大学時代の学生便覧を引用する。2002、2003、2004年版を確認したが、「する」、「します」といった文体の違いを除くと内容は同一である。2004年版を示す：

「Ⅱ　大学の概要

１．設置の目的

社会の高齢化が急速に進行している中で、保健医療従事者に求められる業務は益々高度、かつ多様化し、これまで以上に専門的知識が求められています。そうした保健医療分野での変化を見据え、きたるべき社会に対応するため、豊かな教養と人間として感性高く受容できるヒューマニティを有した保健医療従事者を育成すると共に、県内過疎地域の保健医療サービスの向上に寄与することを目的とします。

当短期大学の校名はポルトガル語の『パース』

（Paz）です。その由来は、西洋医学を日本にはじめて導入した、ルイス・デ・アルメイダにちなんだもので、Paz は平和を表すと共に、

PESSOA（個性）

ASSISTENCIA（互助）

ZELO（熱意）

を意味します。

２．教育の目標

人間愛に根ざした深い教養をもつ社会人並びに医学・医療の進歩に適応する高い専門知識と技術を持ち、生命尊重の人間観察、社会観とその使命感を有する視野の広い保健・医療・看護の実践者を育成することを目標とします。

（注：以下、学科毎の目標が記載されている）」。

⑸　大学の学生便覧の検討

IIでは2010年から2015年までの学生便覧の表現を示した。この６年間は同一の表現が継続された。それらに対して、「本学の概要」の冒頭部分は、2008年ではやや長い説明が記載され、「１．建学の精神、２．教育の理念、３．教育の目的」の３部構成であるが、2009年は、これらを圧縮して「１．建学の精神」のみにまとめられている。そこで、2008年版を引用しておく。

「１．建学の精神

本学の建学の意義は、地域社会の中でもとめられ続けてきた『質の高い保険医療サービス』の確立と実践にあります。本学は保健医療をとおして『平和で公正な社会の発展』『個人の尊厳と自己実現』『多様な人々の共存と協調』『知の創造』に貢献することを希求し、豊かな教養と人間愛に基づく高い見識を備えた人材を涵養することを使命としています。さらに、臨床を重視し、専門領域における高度な実践力、判断力、研究能力を備え、保健医療の深遠を探求することができる人材を地域に輩出することを目指します。

２．教育の理念

16世紀、日本に西洋医学を最初に伝えた外科医であり修道士でもあったポルトガル人ルイス・デ・アルメイダにちなみ、ポルトガル語の Paz【パース　平和：平和で公正な社会の発展】を本学の名称としました。同時に Paz は

pessoã

【ペーソン　個性：個人の尊厳と自己実現】

assistencia

【アシステンシア　互助：多様な人々の共存と協調】

zelo

【セロ　熱意：知の創造】

のそれぞれの頭文字でもあります。

個性の重視と互助の精神、そして熱意。これらを調和させ、平和を目指すこと。Paz の言葉に込めた本学の理念です。

３．教育の目的

豊かな教養と人間愛を備えた質の高い保険医療専門職を育成し、知の創造を通じて国際社会、地域社会に貢献し、保健・医療・福祉サービスの協働を通じて、地域の人々に貢献することを目的とします

（注。以下、II　保健科学部学部目標に続く）」。

⑹　創立者の2011年の著書からの引用

この項では「真っ赤な夢　第二章」（樋口建介著。株サフラン発行。2011年７月31日）から引用する。「第九部　大学の使命と建学の理念」の中の p.160～161の箇所には以下の記載がある。

「このような経緯を経て、学校法人『群馬パース学園』は『Dum Spiro Spero（人には生命ある限り希望がある）』を基本理念とする樋口建介の理念に基づいて設立された。

□学園建学の精神

『群馬パース学園』建学の精神は、地域社会の中で求められてきた『質の高い保険医療サービス』の確立に向けた取り組みとその実現にある。地域社会の保健医療に存立基盤を持つ本学園では、『人間愛とは何か』『生命の尊厳とは何か』『人間尊重とは何か』について共同生活を通して希求し、心身ともに調和のとれた有為な社会人を育成することを建学の精神としている。

大学名の『Paz＝パース』はポルトガル語の平和を意味する。その由来は1552年に渡来した修道士、外科医であるポルトガル人ルイス・デ・アルメイダが、大分に日本最初の大学（コレージオ即ちカレッジ）と洋式病院を作り、ラテン語教育と人間愛を基盤とした医療を実践した歴史による。ちなみに Paz を分解すると、Ｐはペーソン（Pessoã）即ち個性の尊重、Ａはアシステンシア（Assistencia）互助、Ｚはセロ（Zelo）熱意に当たり、この三語は本学園の教育理念でもある」。

次いで、同所の170頁では、地球環境科学部の創設について言及した後に、以下のように述べている。

「そこで、学園の名称である『PAZ』の解釈の変更を考えた。

1　建学の精神について、Paz（平和）は『平和で公正な社会の発展』を維持するが、PAZ の Pessoã（個性）を『個人の尊厳と自己実現』から『個人の尊厳と発展』に変更し、Assitencia（互助）を『多様な人々との共存と協調』から『共存と調和』に変更する。Zelo（熱意）の『知の創造への貢献』は踏襲する。

2　大学の目的について、『人間愛と高い課題解決能力を備えた人材の育成と知の創造を通じて、社会の役に立つことを目的とする』と変更し、融合を図る」。

ちなみに、同書の p.174～175の、「□　人には生命ある限り希望がある」の項目で、「Dum Spiro Spero、ドゥム・スピーロ・スペーロ」の解説とそれを「究極の人間尊重」として、PAZ グループの基本理念とした経緯が記載されている。

以上の創立者の著書の記載も含めて、II とIXの(1)～(6)とから、以下のことが確認できた。

①「公正」の概念は短期大学時代には使われず、大学に移行してから用いられた。② Pessoã を複数形で用いたのは短期大学の設立趣意書のみである。③ Pessã を「個性」、Assistencia を「互助」とするのは短期大学時代からである。④ Zelo を「献身」とするのは短期大学の設立趣意書のみで、それ以外は「熱意」とされてきた。⑤ Zelo に「知の創造」を対応させることは、大学への「群馬パース大学設置認可申請書」の提出以後である。

また、さまざまな文書を検討した結果、「建学の精神、建学の理念、教育の理念、教育の目的、教育の目標、大学の目的」などの用語の使い分けに関しては、各文脈に従ってある程度の自由度を持って使用されて来たことが分かる。2014年度にはその状況を整理しようという動きが学内で生じたので、今後は使い分けがより明確になる可能性がある。本稿ではその動きと矛盾を生じないように、内容を「教育方針」として記載した。しかし、本稿の趣旨が、「教育理念」、「教育の目標」などというタイトルの下で紹介されても、特に問題はないことを明確にしておきたい。

なお、本稿に示された「発展、協調、共存、調和、創造、実現、尊厳」などの諸概念は、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵのどこかに含まれている。

Ⅹ．考察とまとめ

本学の「教育方針」を新たに整理し敷衍した形で提示した。

この教育方針の意義は、PAZ と PAZ 力を組み合わせた簡潔な「教育の枠組み（フレームワーク）」を構築し、整備したことにある。

その結果として、枠組みを活用して、体系的に学生を指導したり、教育できる。

また、その内容は、より詳細な教育プログラムを構築する際の土台として活用できる。

希望的見解を言えば、大学の教職員もこの枠組みを活用して自己研鑽に励むことを望みたい。さらに、大学自体も、提示された枠組みに従って、「先見に従って平和に公正に安定して成長する」ことを期待したい。

中核となるアイデアは創立以来不変だが、具体的な言語表現は時代とともに推移してきた。したがって、今後も大学の学科が増設されるなどして、その実質的な業務の広がりが変化するにつれて、教育方針の表現も発展的に変化させてよいと考える。すなわち、本稿では2015年時点での提案をしたが、将来さらに洗練したり、充実させたりしてよい。「停滞ではなく、成長すること」自体が、教育方針に含まれる概念だからである。

PAZ には、従来は「平和と公正」という意味づけが与えられてきたが、本提案では、新たに平和を支える要件として「安定・成長」という概念を加えた。「成長」という用語には「持続可能な発展」という補助概念も含めた。

「平和・公正・安定・成長」の四目標は、「モットー」や「校風」とも呼べる（注：モットーとは、「日常の行為の目標や方針となる事柄。また、それを表現した語句。標語。座右の銘」を意味する）。

学生にはこの四目標が基盤、基軸となるように平素から指導して、学業面でも生活面でも平和・公正・安定・成長を維持させたい。またその特質が卒業後も継続することを目指したい。

平和の反対は闘争である。教職員、学生いずれに関して、喧嘩、諍い、争い、足の引っ張り合いが起きないようにしたい。公正の反対は、不公正である。学業面でも生活面でも不公正な出来事が起きないようにしたい。安定の反対は、不安定である。不安や消耗する

波乱が起きないようにしたい。成長の反対は、停滞、行き詰まりである。そうならないように向上心と努力が保てるとよい。このように、PAZ 力により、大学自体を律してゆきたい。

PAZ はグループ名でもあるので、グループ全体の方向性と矛盾しないことが望まれる。本稿ではその点の配慮もなされている。

PAZ と PAZ 力に明瞭で簡潔な意味を与えたことで、その内容を広く対外的に発信することができる。

明瞭な意義と役割をもった名称の特色をアピールすることで、「発信」ができる。学内での理解の徹底や、関係者への発信もできる。生徒にも保護者にも、PAZ と PAZ 力の内容を理解していただき、教育方針が浸透することを望みたい。

筆者は大学での 4 年間は、学生の未来を創る準備期間と考えているが、その期間に学生が総合的に成熟できるように導く上で、本稿の内容が役立つことを期待したい。

文　　献

1）樋口建介：「真っ赤な夢　ほたか会の誕生」、医療法人ほたか会．2004：p.110-113.

2）樋口建介：「真っ赤な夢　第二章」、㈱サフラン発行、2011：p.160-161.

3）樋口建介：「真っ赤な夢　第二章」、㈱サフラン発行、2011：p.170.

4）文部科学省　中央教育審議会　大学分科会　大学教育部会（第 9 回）議事録・配付資料　［資料 3］学士課程教育の現状と課題(重要な論点の例)．平成24年 2 月13日.

5）群馬パース大学　2015年度　学生便覧.